

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 23 年 3 月 4 日)

述而第七

13 子^し 齊^{せい}に在^ありて韶^{しょう}を聞^きくこと三月^{さんげつ}。肉^{にく}の味^{あじ}を知ら^しず。曰^{いわ}く、囟^{はか}らざりき、楽^{がく}を為^なすの斯^{ここ}に至^{いた}らんとは。

孔子が齊の国にいて、舜が作った音楽を三ヶ月間聞いていた。音楽に没頭して、食べている肉も味が分からなくなった。音楽というものがここまでのレベルに達するとは、実に思いがけないことだった・・・と述懐しています。

これは孔子が 30 代後半の頃とされています。

何か熱中できるものが欲しいと思います。緑村吟詠会では、詩吟がこのようになればよいのでしょうか。練習をしていくと、家に帰って食事をしても味が分からないくらい熱中している。そうなれば素晴らしいと思います。

14 冉有^{ぜんゆう}曰^{いわ}く、夫子^{ふうし}は衛^{えい}の君^{きみ}を為^{たす}けんかと。子貢^{しこう}曰^{いわ}く、諾^{だく}、吾^{われ} 将^{まさ}に之^{これ}を問^とわんとすと。入^いりて曰^{いわ}く、伯夷^{はくい}・叔斉^{しゅくせい}は何^{なん}びとぞやと。曰^{いわ}く、古^{いにしえ}の賢^{けん}人^{じん}なりと。曰^{いわ}く、怨^{うら}みたるかと。曰^{いわ}く、仁^{じん}を求^{もと}めて仁^{じん}を得^えたり。又^{また}何^{なん}ぞ怨^{うら}みんと。出^いでて曰^{いわ}く、夫子^{ふうし}は為^{たす}げざるなりと。

孔子がお弟子さんを連れて諸国を旅している。衛という国に行った時に、衛の国は親子で君子の地位を争っていました。

衛の靈公には南子という夫人がいます。息子の蒯瞶(かいがい)は淫乱な母親の南子を殺そうとして失敗し、父親の逆鱗に触れ勘当されました。隣国の晋国に逃げて、そこで匿われていたわけです。靈公が亡くなった時に、南子は蒯瞶の息子の辄(ちょう)を王位に立てました。それを知った蒯瞶は晋国の後押しを得て王位につこうと戻って来たので、親子で王位争いを始めたのです。

孔子の弟子の冉有が「孔先生はどちらの君主を助けるのでしょうか」と聞いたので、子貢が「よし、私が先生に聞いてこよう」と言って、孔子の部屋に入って行って「先生は伯夷・叔斉をどう評価しますか」と遠回しに聞きました。

孔子が「昔の賢人だね」と言いました。

伯夷・叔斉については、「緑村吟詠会本部大会資料『養気集』より」の中に、「伯夷叔斉を詠ず」山田方谷という漢詩があります。王位をお互いに譲り合って、首陽山に隠遁し、最後は蕨を食べつつ餓死をしたという話は有名です。

更に子貢が「伯夷・叔斉は後悔したでしょうか」と聞いたので、孔子が、「仁を求めて仁を自分のものにしたのだから、恨む事はないね」と言いました。

それを聞いて子貢は、先生はどちらも助けないだろうと悟って、冉有に告げました。実際にこの後、孔子は衛の国を出ましたから、子貢の読みは当たったわけです。

人さまに質問をする時、直接ズバリと聞く方法もあるけれども、遠回しに間接的に聞いて本音を推察するというのは、悪い方法ではないと思います。ただ、今、国会でやっているのは、はぐらかし専門の答弁に使っているので、よくないと思います。

15 しいわ 子曰く、そし 疏食を飯い、くら 水を飲み、みず 肱を曲げて之をひじ 枕とす。ま 楽亦これ 其の中に在り。まくら たのしみ 亦また 其の中に在り。そ うち あ
ふ 不義にしてぎ 富み且つと 貴きは、か 我に於てたつと 浮雲の如し。われ おい ふうん ごと

孔子が言うには、粗末なものを食べ、水を飲み、肱を曲げて枕にする。本当の楽しみはそういう極貧の中にもあるのであって、不正な手段でお金を稼いだり地位を得ることは、私からみると浮雲のようにすぐに無くなるものだ。

真っ当な道で富も地位も得るように努力しなさい、とお弟子さんに言っているわけです。渋沢栄一さんはこれを手本にしています。

16 しいわ 子曰く、われ 我に数年を加え、すうねん 五十にして以て易を学ばしめば、くわ 以て大過無かるべし。ごじゅう もつ えき まな もつ たいかな

孔子が言うには、私にあと何年か時間をくれれば、50歳になった時には易を学んで、人生少しのミスもないようにしたいものだ。

この文章は孔子が47、8歳という説と、70歳頃という大きな説が2つあります。易を学ぼうというものではないという解釈もありますが、安岡正篤先生は、50代になったら易を学びなさい。30、40代だと易を学ぶ年齢に達していないという解説を施しています。